

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2013年3月号

発行編集人

財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
理事長 シュベネマン クラウス

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第542号

聖書は、塩の三つの効能について語り継いでいます。第一には味付け、第二に防腐剤、第三に清め。これら三つは、キリスト者の使命と関連づけられてきました。

塩に関する聖書の言葉として、広く知られているのは、山上の説教の「あなたがたは地の塩である」(マタイ5:13)という宣言でしょう。

「地」の塩「世の光」という主イエスの二つの教えを結びつけ、弟子たちへ教会への祝福の宣言としています。

「地」の塩として、社会の腐敗を防止し、「世の光」として闇に希望を輝かせることがキリスト者の使命だ、と考えられてきました。

現代においても、世界・社会の腐敗や破壊をとどめていく塩としてのキリスト者の役割は、殊に大きいことを思われます。

\*\*\*

食品栄養学者の河野友美さんは、『食べものからみた聖書』(日本キリスト教団出版局)の冒頭に、塩に関するの幾つかのエッセーを収めてお

いでです。

「マタイ福音書のみ言葉から、長く「塩」という強い味が、他の味におおいかぶさるイメージ」を抱いていたと語っていらつしやいます。

ところが、食品研究に携わる中で、「対比作用」(ほんのわずかな塩が加わることで、料理の味が強く際立つ作用)

## 一粒の「地の塩」として

関東活動センター

運営委員 古賀 博



を知り、隠し味としての塩の働きにも気づかされてきたというのです。そんな河野さんは、「自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい」(マルコ9:50)との主イエスの教えに注目し、社会の中や他者との関係において和解や平和を生み出していく、和らぎを生

む、隠し味的な塩の働きの大切さを思うと記していらつしやいます。

腐敗防止の役割はもろんなること、周囲に溶け込んで他者を輝かせ・活かす、そんな隠し味として奉仕するあり方も、改めて意識する必要があるのではないのでしょうか。

\*\*\*

内田樹さん(思想家)が、昨年末、ご自分のホームページに「新年のご挨拶がわり」という文章を掲載されました。知り合いがFacebookを通じてシェアしてくれましたので、大晦日にじっくりとこれを読んだのです。

一二月半ばに行われた衆議院選挙。その経過や結果を見ながら、内田さんは、現代日本が二極化していることを強く思わされたとのこと。

一方には、空疎な言葉を

なり立て、他者を激しく攻撃し、自分で責任を取ろうとしない人々がいるのだと分析されています。

しかし、もう片方には、「個人としてできることを黙々と引き受け」、自分の足元の空き缶一個を拾うことから、いつの日にか事態の好転を願いながら、社会のただ中で奉仕する、そんな若者があるとも記されていました。

「この人たちの声は小さく、表情は静かである。だが、彼らこそ『地の塩』だと私は思っている。私が今の日本社会を見ていて、あまり絶望的にならずにいられるのは、周囲にいる若い人たちのうちにいくつもの『地の塩』を数えることができるからである」との一文を、実に印象深く受けとめました。

完璧なおじさんとなった私ですが、内田さんが記しておいで若者たちに倣って、「個人としてできることを黙々と引き受け」、「一粒の『地の塩』としてこの世のただ中で奉仕に生きる、このことへの大きな励ましを与えられたように感じています。

(日本基督教団早稲田教会牧師)

関東活動センター

●今日の課題プログラム

「脱原発社会と自然エネルギー」

足利工業大学学長 牛山 泉さん

2013年2月16日(土)

日本キリスト教会館



関東活動センターは「脱原発社会と自然エネルギー」をテーマに、足利工業大学学長、風力発電の第一人者である牛山泉さんを講師にお迎えして、講演会を開催した。講師は講演の流れを、1. 地球環境問題の現状、2. 自然エネルギーの現状、①風力エネルギー、②太陽エネルギー、③バイオマスエネルギー、④水力・地熱・海洋エネルギー、3. 原子力発電の問題点、4. 将

来のエネルギーへのチャレンジと分けて話された。

特に21世紀の人類が直面する諸問題を、人口、食糧、環境、資源、エネルギー問題の五つに、水の問題を加えた六つとして提示。1945年には世界人口は23億人であったが、約60年後の今日70億人を突破している現状を直視してエネルギー問題に取り組むべきことを先ず指摘された。

何より豊富なデータをを用いて様々な視点からも問題を提起されたが、例えば日本の課題として、食糧自給率が40%未満という事実と、エネルギー自給率に至っては実に4%という現実がある。また地球温暖化の加速度的進行の問題を見据えた、自然エネルギーの可能性を具体的に提示



された。

講師の専門の風力発電においては、世界最大の風力発電国は中国であり、2位がアメリカ、3位がドイツで、中国・アメリカは驚異的に伸びている一方、日本は12位前後と低迷している。

発電量2MWクラスの大型風車1基がどれくらいの貢献をするかという、年間で一般家庭1400世帯分の消費電力を賄い、石油に換算すればドラム缶86000缶の節約、CO<sub>2</sub>削減では約5000t、そのCO<sub>2</sub>削減を樹木(杉)に換算すると約36万本分に相当する。そして日本全体では13万台の風車で全電力需要を賄えるが、現状は2000台

程しかない。一方、日本の風車製造の技術力は世界に秀でており、それゆえに雇用の創出や経済効果も絶大である。

太陽光発電の現状と可能性においても、遅れを取っている日本の現実がある。またアジアやアフリカの薪として燃やされる樹木保護のためにソーラークッカーの普及に取り組み足利工業大学などの働き、バイオマス、小型水力、地熱、波力などの発電の事例と可能性を紹介された。

そして、すでに多くの日本人が知ることとなった、原子力発電の諸問題を次々と指摘された。原発事故の問題、放射性廃棄物の問題、被爆労働、地域との関係、リスク評価と損害保険、10万年恒久的貯蔵設備の問題や世代間倫理など、またその発電コストのまやかしと詭弁を説明し、これらの現実に立つて、自然エネルギーの豊かな可能性について、環境省が2011年4月出した資料を示めしながら解説された。

それによれば、太陽光、風力(陸・洋上)、中小水力、バイオマス、地熱の総発電力は2億1千万kwに達し、全原

発発電量の40倍以上に相当すること。日本はそれだけの可能性を秘めていること。さらに国際社会、特にアジアにおいて複合的自然エネルギーのネットワークを構築し、アジア・スーパードリッド構想をこそ地域共存の要とすること。政治・軍事の対立ではなく国家間の信頼こそが求められるとの提言もなされた。

最後に内村鑑三が百年前に行った講演「デンマルク国の話」を取り上げられ、植林の重要性と、小国日本が目指すは外なる有限ではなく、内なる無限であることを述べられた。内村は百年前、すでに太陽光・波濤・風力・地熱を利用することの富源を提示していたことに学ぶべきと結論し、内村が「自然ではなく「天然」とし、まさに「天の然り」としたエネルギーの活用が未来を拓く。持続可能な社会の創造は、持続可能なエネルギーによって生まれことを学者の冷静さと豊かなユーモアを交えて話され、参加者はここにこれからの希望があることを感じる事ができた。

関西セミナーハウス活動センター

●2012年度「開発教育セミナー」第5回

『多みんぞくニホン』を生きる  
～在日コリアンとベトナム難民～

関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会  
ゲスト：グエン バン トウインさん  
2012年11月10日(土) ～11日(日)



11月10日～11日に『多みんぞくニホン』を生きる～在日コリアンとベトナム難民～を実施しました。今回のセミナーは、今年度、本研究会が出版した教材集『身近なことから世界と私を考える授業パートⅡ―オキナワ 多みんぞくニホン 核と温暖化』(※)に掲載されているアクティビティを、多くの方々に体験していただきたいとの願いから企画したセミナーです。

た。第1セッションでは、日本で放送されている多言語のラジオ番組を聴いてもらい、何語で話されているかを考え、そこからの気づきについて共有しました。第2セッションでは、年表や写真を用いて、朝鮮から日本に来ざるをえなかった人々、日本から朝鮮に渡った人々について、どんな状況で移動したのか、その時の様子はどのようなものであったかについて考えました。そして、第3セッションでは、日本に来られたベトナム難民のグエン・バン・トウインさんを招いて、教材『ビン君に何が起きたのか』と一緒に体験していただきながら、ベトナムを脱出されたときの様子や、日本に来られて



からの状況についてのお話を聴かせていただきました。

参加者は大変少なく、残念な結果とはなりましたが、その内容は大変興味深く、質の高いものであったと思います。

※『身近なことから世界と私を考える授業Ⅱ―オキナワ 多みんぞくニホン 核と温暖化』制作・開発教育研究会 発行・明石書店(2012年7月) 1,600円(税別)は、関西セミナーハウス活動センター他、全国書店で販売しています。

●2012年度「お茶のこころと宗教のこころ」第2回  
「お茶とキリスト教」

春日部福音自由教会名誉牧師 高橋 敏夫さん  
2012年11月5日(月)

11月5日(月)13:30～17:00、能舞台と茶室「清心庵」で開催されました。

講師は、埼玉の春日部福音自由教会の名誉牧師、表千家教授、在主席庵主、日本文化宣教協力会主幹伝道者である高橋敏夫先生です。

高橋牧師は、自分の人生の目標となる人を探して高山右近に出会い、茶に出会い、キリスト教との関係を感じて研究に入られました。先年、利休の400年が記念されて御三家の宝物が展示された時、

やまんなば文庫と言われる箱の裏側にエデンの園でエバが蛇に誘惑されて木の実を食べる

絵が描かれていることを発見されて、ますます茶道とキリスト教の関係が深いことを感じられました。ご講演の後、

質疑とはなしあいがあり、「利休はクリスチャンか」との質問に、「利休がクリスチャンであった証拠はないが、点を繋いでゆくと線になり、キリスト教と深い関係が伺えるように思う。利休は高山右近を通してキリスト教の感化を受けたのではないか」と説明されました。

高橋先生の話は、自由奔放に拡散して行かれ、参加者はそれぞれの関心に応じて刺激を受けられたのではないかと思います。



### プログラム案内

#### ◆関東活動センター

##### ■聖書を読む講座

「はじまりの聖書～旧約聖書の人間模様」

講師：吉岡康子さん（青山学院短期大学宗教主任）

日時：2013年2月～6月の月曜日（19:00～20:30）・原則月1回 全5回

②3月18日 ③4月15日 ④5月20日 ⑤6月17日 \*第1回は終了

会場：日本キリスト教会館6階会議室

参加費：1,200円/学生500円

共催：早稲田奉仕園

「聖書によれば同性愛は罪？－わたらしい性とのために」

講師：山口里子さん（日本フェミニスト神学・宣教センター 共同ディレクター）

日時：2013年4月～12月の第2月曜日（18:30～20:00）・原則月1回 全8回

①4月8日 ②5月13日 ③6月10日 ④7月8日 ⑤9月

財団本部  
<http://www.academy-nippon.com>  
 関東活動センター  
<http://www.academy-tokyo.com>  
 関西セミナーハウス  
<http://www.kansai-seminarhouse.com/>  
 関西セミナーハウス活動センター  
<http://www.academy-kansai.org>

財団法人 日本キリストチャン・アカデミー  
 理事長 シュペネマン クラウス

本部事務局  
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
 TEL 075-711-2147  
 FAX 075-701-5256

関東活動センター  
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
 日本キリスト教会館1F  
 TEL 03-3207-6198  
 FAX 03-3207-2478  
 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/  
 関西セミナーハウス活動センター  
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス  
 TEL 075-711-2115  
 E-mail:info@academy-kansai.com

関西セミナーハウス活動センター  
 TEL 075-711-2117  
 E-mail:office@academy-kansai.org

### 公益財団法人日本キリストチャン・アカデミーの発足について

1961年に設立された財団法人日本キリストチャン・アカデミーは、公益法人の認定を受け、4月1日をもちまして公益財団法人日本キリストチャン・アカデミーに移行する予定です。

当財団は、設立当初からキリスト教の精神に基づき、はなしあいを中心に、社会のための事業を行ってまいりました。公益財団法人の認定を機により一層、平和、正義、いのちが尊ばれる社会の実現を目指す活動を行い、社会に寄与貢献できるよう努力をす所存です。

理事長 シュペネマン・クラウス

9日 ⑥10月7日 ⑦11月11日 ⑧12月9日

会場：日本キリスト教会館6階会議室

参加費：1,200円/学生500円  
全8回8,000円/学生3,500円

共催：早稲田奉仕園

#### ◆関西セミナーハウス活動センター

#### ■第4回神学生交流プログラム

「日本文化とキリスト教 一京都におけるキリシタン文化を訪ねてー」

校長：神田健次さん

講師：杉野 榮さん

日時：2013年3月25日(月)～27日(水)

会場：関西セミナーハウス

対象：各神学校から推薦を受けた学生

共催：関東活動センター

### 賛助会費・後援会費・寄付金報告

第4回神学生交流プログラム募金  
2012年11月1日～2013年1月31日

2013年1月1日～2012年1月31日  
(順不同・敬称略)

早稲田奉仕園 10,000  
 恵泉女学園中学・高等学校 10,000  
 信和会 宗務部 20,000  
 鈴木 伶子 5,000  
 藤野 冷子 5,000  
 立石 昭三 2,000  
 松本 圭子 5,000  
 手銭 秀夫 3,000  
 山本 一成 10,000  
 堀江 優 10,000  
 中山 晴美 3,000  
 斉藤 洋子 4,000  
 関田 寛雄 5,000  
 小久保 正 10,000  
 マカダム 幸子 3,000  
 日本基督教団 松沢教会 10,000  
 藤倉 寿美子 10,000  
 竹中 百合子 5,000  
 田中 義信 3,000  
 松原 千里 2,000  
 島田 恒 10,000  
 島田 治夫 2,000  
 日本基督教団 箕面教会 5,000  
 橘 俊子 10,000  
 中西 綾子 5,000  
 岡安 茂祐 3,000  
 椿 邦良 5,000

#### ◆関東活動センター

##### 賛助会費

椿 邦良 5,000  
在日本韓国YMCA 10,000

##### 寄付金

戒能 信生 5,000  
日本基督教団 早稲田教会 70,000

##### クリスマス募金

高德 芳忠 5,000  
久世 礼子 2,000  
日本基督教団 東京府中教会 5,000  
萩原 隆司 1,000  
日本基督教団 市川三本松教会 3,000  
椿 邦良 5,000

#### ◆関西セミナーハウス活動センター

##### 賛助会費

蔭山 淳 10,000  
高橋 正、恭子、想 5,000

##### 寄付金(クリスマス寄付金を含む)

佐野 千枝子 5,000  
久世 礼子 2,000  
日本基督教団南大阪教会 15,000  
日本基督教団紫野教会 4,000  
日本基督教団倉敷教会 5,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。